

2023年度

大学院シラバス

研究科間共通科目

明治大学大学院

明治大学校歌

明治大学校歌

児玉花外 作詩

山田耕筰 作曲

白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

二

権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三

靈峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

目 次

研究科間共通科目	3
科目ナンバリングについて	4
1 概要	5
2 「学術英語コミュニケーション」及び「英文学術論文研究方法論」の履修について	5
3 授業科目及び担当者	6
4 シラバス：学術英語コミュニケーション	8
5 シラバス：英文学術論文研究方法論	12
6 シラバス：国際系総合研究	16
7 シラバス：学際系総合研究	18
8 シラバス：現象数理・ライフサイエンス融合教育	22
9 シラバス：キャリアパス関連科目	23
交通遅延発生時の授業等の措置について	25
大規模地震等災害発生時の対応について	25

研究科間共通科目

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

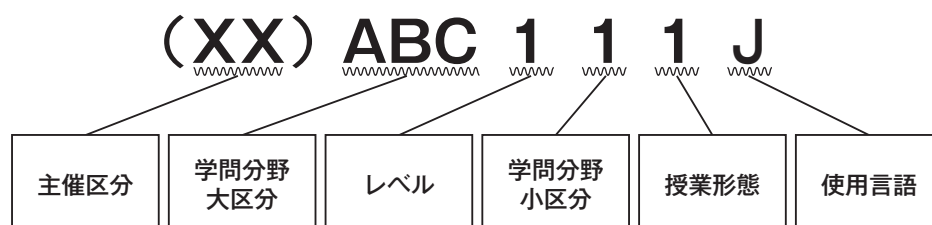
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

<科目ナンバーの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

<科目ナンバーの例>

(OP) IND 5 1 1 E

研究科間共通総合講座／学際・総合・複合領域／大学院（修士・専門職）基礎的な内容の科目／学際・総合・複合領域／講義／英語

※ 大学院が設置する、研究科間共通総合講座—学際・総合・複合領域分野の科目で、英語により行われる大学院（修士・専門職）レベルの基礎的な内容の科目という意味。

以上

研究科間共通科目

研究科の枠を越えた柔軟かつ学際的なカリキュラムを設計するため、大学院に「研究科間共通科目」を設置しました。これらの科目は、各研究科博士前期課程・修士課程及び専門職学位課程に横断して設置され、各研究科委員会が認めた場合には、博士後期課程に在籍する者も履修することができます。

※履修及び修了要件の取扱いについては所属の研究科シラバスを参照してください。

1 概要

これまでの大学院教育は、それぞれの専門分野において過去に積み上げられてきた実績に基づき、大学院生にその専門的知識を蓄積させ、それをいかに通曉するか、その方法を教えることを支柱としてきました。このことは、個々の研究の発展と蓄積に大きな貢献をしてきましたが、他方では、近年急速に複雑化してきた社会問題への対応を困難にする要因ともなってきました。

しかし、これからの大学院教育には、いくつかの既成の概念を組み立て、新しいアイデアを創出することが求められています。現在の多様でグローバルな社会の諸問題に対処するためには、理論のみならず現実の社会現象にも通曉し、新しい知を創造できる能力が必須であり、そのためには問題解決プロセスにおいて、実際に構想し、施策として実践できるような大学院教育を行う必要があります。

さらに、学問領域を越えると同時に、国境をも越えた国際的な研究活動が求められる昨今、国際的な舞台において研究活動を発表し、世界各国の研究者と議論を深めることが重要度を増しています。この国際的・学際的能力を備えて初めて、日本や本学の研究成果を世界に発信できることが可能となります。

研究科間共通科目は、このような喫緊の社会的要請に応えるため、大学院学生が国際的な学術世界へとたどり着けるための実践的な技能、社会の抱える課題を解決していく学際的な能力を涵養することをその目的としています。

2 「学術英語コミュニケーション」及び「英文学術論文研究方法論」の履修について

(1) 履修者数の制限措置

各クラスに履修上限人数を設けています。なお、履修希望者数がそれを上回る場合は、履修者の選抜を行います。具体的な履修上限人数は、下表のとおりです。

学術英語コミュニケーション	英文学術論文研究方法論
20名	10名

(2) 同一科目の複数回履修について

英語能力の向上には、継続的に英語を使う必要があります。そこで各科目につき、各学期1クラスを上限として、複数回の履修を認めています。

ただし、複数回履修した際の、履修・修了要件への算入については、所属の研究科によって異なりますので、必ず履修登録前に確認してください。

3 授業科目及び担当者

授業科目	キャンパス	開講期	単位	担当教員	
国際系科目群					
学術英語 コミュニケーション	駿河台 (一部対面)	(1) [M]	春	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(2) [M]	春	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(3) [M]	春	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(4) [M]	秋	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
	生田 (一部対面)	(5) [M]	春	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(6) [M]	春	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(7) [M]	春	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(8) [M]	秋	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
	フルオンライン	(9) [M]	秋	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(10) [M]	春	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
	中野 (一部対面)	(11) [M]	春	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(12) [M]	秋	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
	フルオンライン	(13) [M]	春	2	兼任講師 スティーブンス,サイモンA
		(14) [M]	秋	2	兼任講師 スティーブンス,サイモンA
英文学術論文 研究方法論	フルオンライン	(1) [M]	春	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(2) [M]	春	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(3) [M]	春	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(4) [M]	春	2	兼任講師 スティーブンス,サイモンA
		(5) [M]	秋	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(6) [M]	秋	2	特任准教授 博士(学術) 中井 真木
		(7) [M]	秋	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(8) [M]	秋	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(9) [M]	秋	2	特任講師 Ph.D 藤川 真由
		(10) [M]	秋	2	兼任講師 スティーブンス,サイモンA
国際系総合研究A [M]			2	<2023年度未開講>	
国際系総合研究B [M]			2	<2023年度未開講>	
国際系総合研究C [M] 「最先端の神経内分泌学的研究の 英語による理解と表現」	フルオンライン	春	2	専任准教授 博士(医学) 川口 真以子[コーディネーター]	
国際系総合研究D [M] 「比較美術史」	フルオンライン	秋	2	専任教授 博士(経済学) 山口 不二夫[コーディネーター]	

授業科目	キャンパス	開講期	単位	担当教員		
学際系科目群						
学際系総合研究A〔M〕 「学際的なアメリカ研究」	フルオンライン	春	2	専任教授	博士(法学)	清原 聖子〔コーディネーター〕
学際系総合研究B〔M〕 「会計検査から見た事業の評価」	フルオンライン	春	2	客員教授		長岡 尚志
学際系総合研究C〔M〕 「地域経済分析」	フルオンライン	春	2	専任教授		八木 尚志〔コーディネーター〕
学際系総合研究D〔M〕 「生物多様性-新たな規範を求めて-」	生田 (一部対面)	春	2	専任教授	博士(農学)	倉本 宣〔コーディネーター〕
現象数理・ライフサイエンス融合教育系科目群						
融合共創プロジェクト			2	<2023年度未開講>		
バイオエコノミー〔M〕			2	<2023年度未開講>		
材料開発とデータサイエンス〔M〕			2	<2023年度未開講>		
ライフサイエンスデータ解析〔M〕	フルオンライン	春	2	専任教授	博士(学術)	中村 和幸
キャリアパス関連科目群						
ジョブ型研究インターンシップ	—	通年(集中)	2	専任教授	博士(工学)	榊原 潤
キャリアパス支援科目 「産学連携型キャリア支援講座」	駿河台	春(集中)	2	専任教授		歌代 豊〔コーディネーター〕

<注意事項>

※〔M〕はメディア授業科目になり、詳細はキャンパス欄に記載のとおりです。

【一部対面】

対面授業とメディア授業を併用し、対面授業は指定のキャンパスで実施します。

【フルオンライン】

全ての回の授業は、メディア授業で実施します。

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	学術英語コミュニケーション (1)・(5)・(10)・(11) [M] Fundamentals of English Communication Skills for Academic Settings				
Campus	Surugadai	Semester	Spring	Credits	2
Faculty Member	藤川 真由 (Mayu FUJIKAWA) 特任講師 Ph.D.				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

This course is designed to develop students' English communication skills and career paths within academic and professional settings abroad.

In this course, students will learn how to introduce themselves, greet others, and deliver effective presentations in English. In addition, students will practice how to write emails, CVs, and cover letters as well as how to exchange ideas during group discussion.

授業内容 (Course Contents)

- Week 01: Conversational skills
- Week 02: Hometown promotion
- Week 03: Emails and academic honesty
- Week 04: CVs
- Week 05: Cover letters
- Week 06: Research interests*
- Week 07: Overseas professional opportunities I
- Week 08: Campus tour*
- Week 09: Overseas professional opportunities II
- Week 10: Conference and poster presentations
- Week 11: Group discussion
- Week 12: Short lectures*
- Week 13: Short lectures*
- Week 14: Epilogue

All the classes meet on Zoom, except the four face-to-face meetings that are indicated by asterisks (*).

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

Dedicated students at any English level are welcome to take this course.

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Weekly oral presentations and short writing assignments in English.

教科書 (Textbook(s))

None.

参考書 (Reference(s))

None.

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Comments are offered in class after each presentation; written feedback is given to writing assignments, which is reviewed with individual students to ensure their understanding.

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Attendance and participation: 20% .

Assignments: 80% .

その他 (Other)

The course is taught in English.

The syllabus is subject to change depending on the dates of students' presentations at international conferences.

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	学術英語コミュニケーション (2)・(3)・(4)・(6)・(7)・(12) [M] Fundamentals of English Communication Skills for Academic Settings				
Campus	Surugadai	Semester	Spring	Credits	2
Faculty Member	中井 真木 (Maki NAKAI) 特任准教授 博士 (学術)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

This course is designed to develop practical communication skills through multiple activities including oral presentations, imitation of model presentations, discussions of diverse topics, and writing emails and CVs. All participants will be required to take part in discussions as well as talk and write about their research.

本科目では、会話練習、複数回の短い口頭発表、講演ビデオの視聴や模倣、討論、メールや履歴書の作文等、コミュニケーション技術の実践的なトレーニングを積みみます。受講者には、自身の研究について発表することや、議論に主体的に参加することが求められます。

The objective of the course is for students to acquire the skills and confidence needed to participate in international settings and to build a global human network.

授業の到達目標は、受講生が国際的な人的ネットワークを形成し、その中で活動していくための技術と自信を習得することです。

授業内容 (Course Contents)

* The content will be adjusted to the size of the class and the needs of the students; therefore the below schedule is subject to change.

授業内容は受講者の数や関心、レベルに合わせて調整します。そのため、下記の日程は変わる可能性があります。

Week 1: Sharing experiences and challenges 経験や問題を共有し目標を定める (Zoom)

Week 2: Developing conversation 会話をつなげる / Explaining research interests 研究テーマを説明する (Zoom)

Week 3: Improving listening skills リスニング力の強化 / Discussing hot topics ディスカッション (Zoom)

Week 4: Introducing a book 本を紹介する発表 / Writing emails メール作文 (Zoom)

Week 5: Analyzing model presentations 手本となる発表の分析 (Zoom)

Week 6: Copying model presentations 手本の模倣 / Discussing social issues ディスカッション (face-to-face 対面)

Week 7: Copying model presentations 2 手本の模倣2 / Online and face-to-face presentation skills オンラインと対面の発表技術 (Zoom)

Week 8: Writing CVs and cover letters 履歴書とカバーレター (Zoom)

Week 9: Organization of effective presentations 成功する発表の構成 / CVs and cover letters 2 履歴書とカバーレター 2 (Zoom)

Week 10: Making better slides 効果的なスライド作り (face-to-face)

Week 11: Mini presentations ミニ発表 (Zoom)

Week 12: Giving and gaining useful feedback 質疑応答への対応 / Discussing cultural issues ディスカッション (Zoom)

Week 13: Final presentations 最終プレゼンテーション1 (Zoom)

Week 14: Final presentations and wrap up 最終プレゼンテーション2とまとめ (face-to-face 対面)

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

* This course will be taught primarily as a live online course using Zoom, with face-to-face meetings about three times during the term. The number and date of face-to-face sessions will depend on the participants' circumstances and needs and are subject to change.

この授業はメディア授業科目として開講されます。授業は基本的にZoomを用いたりアルタイム配信型で行いますが、受講生の必要に応じて、3回程度対面授業を行う予定です。上記授業計画中の対面授業の日程は暫定的なものとし、最終的な日程は受講生と相談の上決定します。

* The information for joining Zoom meetings will be provided through "Syllabus Supplement" on Oh-ol Meiji "ClassWeb," one week prior to the beginning of the course.

Zoomのミーティング情報等は、開講1週間前よりOh-ol Meiji上の「シラバスの補足」に記載します。

* The course is limited to 20 students. If more than 20 apply to take it, a selection will be made among those who attend the first class. If a student wants to take the course but for some unavoidable reason cannot attend the first class, they should contact the instructor beforehand.

受講者は20人に制限します。受講希望者が20人を超える場合、初回の授業で選抜を行います。初回授業を欠席する特段の理由がある場合には、事前に担当教員に連絡してください。

* While the class will be conducted in English, the course is open to all students, regardless of prior level of English. All students who are serious about improving their professional English skills are welcome.

授業はすべて英語で行いますが、履修のための要件はありません。現在の英語レベルにかかわらず、研究者・専門家として必要となる英語力の向上を目指す学生はどなたでも歓迎します。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Every week, students will be required to submit an assignment before class and/or present it in class and to review the feedback from the instructor after class. Submitted assignments will be used as discussion materials and shared with other students.

毎回の講義で課題を出します。課題は、その種類に応じて、次の講義前に提出、または講義中に発表します。講義後には、講義の内容を復習し、課題へのコメントを見直すことが求められます。提出課題の内容は、講義中に討論の題材として用いることがあります。

教科書 (Textbook(s))

None. The instructor will provide class materials.

なし。必要に応じて適宜配布します。

参考書 (Reference(s))

* Swan, Michael. *Practical English Usage*. Fourth ed. Oxford University Press, 2016.

* Wallwork, Adrian. *English for Academic Correspondence*. Second ed. Springer, 2016.

* Wallwork, Adrian. *English for Presentations at International Conferences*. Second ed. Springer, 2016.

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

The instructor will provide feedback to assignments in class and via Oh-ol Meiji.

課題に対しては授業内およびOh-ol Meijiを通じて随時フィードバックを行う。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

* Weekly assignments (presentations, correspondence, slides, scripts, etc.) 毎週の課題: 60%

* Participation during class 講義への参加態度: 40%

Evaluation will be based on the student's efforts and improvement during the term.

評価は、学生の取り組み方および講義期間中の成長に対して行います。

その他 (Other)

Always bring a good dictionary to class. Either paper or electronic is acceptable.

信頼できる英語の辞書(できれば英英辞典)を毎回持ってきてください。紙でも電子媒体でもかまいません。

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	学術英語コミュニケーション(8)・(9) [M] Fundamentals of English Communication Skills for Academic Settings				
Campus	Ikuta	Semester	Fall	Credits	2
Faculty Member	藤川 真由 (Mayu FUJIKAWA) 特任講師 Ph.D.				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

This course is designed to develop students' English communication skills and career paths within academic and professional settings abroad.

In this course, students will learn how to introduce themselves, greet others, and deliver effective presentations in English. In addition, students will practice how to write emails, CVs, and cover letters as well as how to exchange ideas during group discussion.

授業内容 (Course Contents)

Week 01: Conversational skills
 Week 02: Hometown promotion
 Week 03: Emails and academic honesty
 Week 04: Research interests*
 Week 05: CVs
 Week 06: Overseas professional opportunities
 Week 07: Overseas professional opportunities
 Week 08: Cover letters
 Week 09: Campus tour*
 Week 10: Conference and poster presentations
 Week 11: Group discussion
 Week 12: Short lectures*
 Week 13: Short lectures*
 Week 14: Epilogue

All the classes meet on Zoom, except the four face-to-face meetings that are indicated by asterisks (*).

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

Dedicated students at any English level are welcome to take this course.

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Weekly oral presentations and short writing assignments in English.

教科書 (Textbook(s))

None.

参考書 (Reference(s))

None.

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Comments are offered in class after each presentation; written feedback is given to writing assignments, which is reviewed with individual students to ensure their understanding.

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Attendance and participation: 20% .
 Assignments: 80% .

その他 (Other)

The course is taught in English.
 The syllabus is subject to change depending on the dates of students' presentations at international conferences.

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	学術英語コミュニケーション (13)・(14) [M] Fundamentals of English Communication Skills for Academic Settings				
Campus	Full online	Semester	Spring/Fall	Credits	2
Faculty Member	スティーブンス, サイモンA (Simon A. STEVENS) 兼任講師				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

The aim of this course is to improve the students' presentation skills both in academic contexts (at universities, conferences) as well as working situations. Learning to present is a life skill, not just a study skill, so it will be a very practical course.

Students will learn how to plan and organize their research ideas with a concrete central focus. We shall also work on using gestures and voice inflection to make the presentations clear and persuasive. Additionally, students will use visuals (graphs, charts and images) to make their information/data more accessible to their audience. Initially starting with poster presentations in pairs and groups to build self-confidence, we will then move onto computer-based presentations.

この講義は、学術的な場(大学、学会等)や職場におけるプレゼンテーションスキルを向上することが目的である。プレゼンテーションを学ぶことは、単なる学習スキルではなく、生きていく上で必要なスキルなので、大変実用的な講義である。

講義では、学生が明確に自分自身のアイデアを計画・整理することを学び、プレゼンテーションをより明確及び説得力のあるものにするためのしぐさや声の抑揚も練習する。そして、聴衆がより理解しやすいように、情報やデータに視覚(図、表及び画像)を用いる。前半は自信を身につけるために、ペアやグループに分かれてポスタープレゼンテーションを行い、後半からはコンピュータープレゼンテーションの実習を予定している。

授業内容 (Course Contents)

The class schedule is as follows but may change according to student needs:

Note : Classes will be on ZOOM. 【メディア授業科目(リアルタイム配信型)】

講義スケジュールは以下のとおりだが、履修者の希望によって内容を変更する場合もある:

Week 1: Introduction to the course (オリエンテーション)

Week 2: Posture & Eye Contact (姿勢とアイコンタクト)

Week 3: Mini-Presentation 1 (ミニ・プレゼンテーション1)

Week 4: Gestures (しぐさ)

Week 5: Voice inflection (声の抑揚)

Week 6: Mini-Presentation 2 (ミニ・プレゼンテーション2)

Weeks 7 & 8: Effective visuals (効果的なビジュアル)

Week 9: Mini-Presentation 3 (ミニ・プレゼンテーション3)

Week 10: The Introduction (導入)

Week 11: The Body (本文)

Week 12: The Conclusion (まとめ)

Week 13: Preparation for final presentations (最終プレゼンテーション準備)

Week 14: Final Presentations (最終プレゼンテーション)

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

The class will be limited to 20 students and will be conducted in English.

履修定員を20名とし、授業は英語で実施する。

準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)

Assignments will be given for each session. They will be practical and useful and include watching Youtube and other presentation examples, such as Ted talks. This will broaden your knowledge of what is a good presentation.

各講義において課題を課す予定です。

教科書 (Textbook(s))

Speaking of Speech Premium Edition by Charles Le Beau, National Geographic Learning

ISBN 9784863123854

参考書 (Reference(s))

Please bring a good dictionary.良い辞書を持参すること。

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

I will provide feedback on all presentations with regard to The Content/ Structure (Story message), The Visual message (slides and posters) and The Physical message (Body Language).

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

50% Class participation; 50% class assignments and presentations

50%参画度, 50%課題及びプレゼンテーション

その他 (Other)

This class will help you not only at university for your research, but also for job hunting, work skills and if you continue your studies at PhD level.

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	英文学術論文研究方法論(1) [M] Fundamentals of Writing Academic Papers in English				
Campus	Full online	Semester	Spring	Credits	2
Faculty Member	藤川 真由 (Mayu FUJIKAWA) 特任講師 Ph.D.				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

This course is designed to help students develop academic writing skills in English and become acquainted with how to publish their research findings outside Japan.

In this course, students are required to write a research paper on the topic of their choice. The process of writing will be divided into several steps, which facilitates their learning experiences.

授業内容 (Course Contents)

Week 01: Citation and research topic
 Week 02: Thesis statement, outline, and critical reading
 Week 03: Literature review and academic honesty
 Week 04: Supporting evidence I/Methodology
 Week 05: Publishing abroad
 Week 06: Supporting evidence II/Results
 Week 07: Article structure, contents, and expressions
 Week 08: Discussion
 Week 09: Introduction
 Week 10: Conclusion and abstract
 Week 11: Expansion
 Week 12: Final touches
 Week 13: Revision
 Week 14: Epilogue
 All the classes meet on Zoom.

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

Dedicated students at any English level are welcome to take the course.

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Weekly writing assignments and oral presentations in English.

教科書 (Textbook(s))

None.

参考書 (Reference(s))

A good English dictionary.

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Provide written comments on writing assignments and review them in class.

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Attendance and participation: 10% .
 Assignments: 90% .

その他 (Other)

The course is taught in English.

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	英文学術論文研究方法論 (2)・(3)・(5)・(6) [M] Fundamentals of Writing Academic Papers in English				
Campus	Full online	Semester	Spring	Credits	2
Faculty Member	中井 真木 (Maki NAKAI) 特任准教授 博士 (学術)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

This course consists of a sequence of exercises in drafting, editing, and peer-reviewing a research paper. As a final project, the students will write a book review, a review article, a short research paper, an introduction to a paper, or an abstract in their specialized areas of study.
 本科目では、作文と校正の繰り返しを通して、学術英語の語彙、文法、形式等の知識と技能を向上させます。学期末には書評、論評、小論、論文の序論、要旨などを仕上げます。授業内容は受講生の必要に応じて調整しますので、現在取り組んでいる英文要旨や論文などがある場合には、担当教員に相談してください（ただし、受講者数や原稿の量等によっては、限定的な指導となります）。

The objective of the course is for students to strengthen their skills in academic writing and gain confidence in writing research papers in English.
 本科目の到達目標は、今後、英文学術論文を執筆していく拠り所となる技能と自信を獲得することです。

授業内容 (Course Contents)

- The content will be adjusted to the size of the class and the needs of the students; the below schedule is therefore subject to change.
 授業内容は受講者の数や関心、レベルに合わせて調整します。そのため、下記の日程は変更する可能性があります。特に論文や要旨の執筆指導の希望がある場合には、それらを優先します。
- All classes will be taught via Zoom. 全授業をリアルタイム配信型 (Zoom) で行います。
- Week 1: Setting the target 目標を定める
- Week 2: Writing strategies 自分なりの書き方を見つける
- Week 3: Flow of text 文の流れ
- Week 4: Extended definition essay 長めの定義
- Week 5: Academic language and academic styles 学術的な言葉遣いとスタイル
- Week 6: Summarizing and paraphrasing 要約とパラフレーズ
- Week 7: Annotated bibliography 注付き文献表
- Week 8: Data commentary データ解釈
- Week 9: Controlling the strength of claims 主張の強さのコントロール
- Week 10: Reviews 評論文
- Week 11: Outlining a research paper 論文のアウトライン
- Week 12: Effective introduction and conclusion イントロダクションと結論部
- Week 13: Abstract 要旨
- Week 14: Wrap up まとめ

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

- This course will be taught as a live online course using Zoom.
 この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべてZoomを用いたリアルタイム配信型で行います。
- The information for joining Zoom meetings will be provided through "Syllabus Supplement" on Oh-ol Meiji "ClassWeb," one week prior to the beginning of the course.
 Zoomのミーティング情報等は、開講1週間前よりOh-ol Meiji上の「シラバスの補足」に記載します。
- The course is limited to 10 students. If more than 10 apply to take it, a selection will be made among those who attend the first class. If a student wants to take the course but for some unavoidable reason cannot attend the first class, they should contact the instructor beforehand.
 受講者は10人に制限します。受講希望者が10人を超える場合、初回の授業で選抜を行います。初回授業を欠席する特段の理由がある場合には、事前に担当教員に連絡してください。
- While the class will be conducted in English, the course is open to all students, regardless of prior level of English. All students who are serious about improving their professional English skills are welcome.
 授業はすべて英語で行いますが、履修のための要件はありません。現在の英語レベルにかかわらず、研究者・専門家として必要となる英語力の向上を目指す学生はどなたでも歓迎します。
- While students are welcome to enroll in both spring and fall, the class content may heavily overlap.
 春学期・秋学期を重ねて履修することもできますが、受講生の顔ぶれによっては講義内容が重複します。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Students will be required to submit an assignment before every class and to review the feedback from the instructor after class. Submitted assignments will be used as class materials and shared with other students.
 毎回の講義前に課題を提出します。講義後には、講義の内容を復習し、課題へのコメントを見直します。提出課題の内容は、講義中に教材として用いることがあります。

教科書 (Textbook(s))

- STEM Students 理工系の専攻
 ・Glasman-Deal, Hilary. *Science Research Writing: For Native and Non-Native Speakers of English*. Second ed. World Scientific, 2021. (もしくは初版訳書の、ヒラリー・グラスマン-ディール『理系研究者のためのアカデミックライティング』甲斐基文、小島正樹訳、東京図書、2011)
- Social Sciences and Humanities 社会科学系・人文系の専攻
 ・Swales, John M. and Christine B. Feak. *Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills*, Third ed. University of Michigan Press, 2012.

参考書 (Reference(s))

- ・Swan, Michael. *Practical English Usage*. Fourth ed. Oxford University Press, 2016.
- ・Meyers, Alan. *Longman Academic Writing Series 5: Essays to Research Papers*. Pearson Education, 2013.
- ・Wallwork, Adrian. *English for Writing Research Papers*. Second ed. Springer, 2016.

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

The instructor will provide feedback to assignments in class and via Oh-ol Meiji.
 課題に対しては授業内およびOh-ol Meijiを通じて随時フィードバックを行う。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

- Weekly assignments 毎週の課題: 60%
 - Participation during class 講義への参加態度: 40%
- No face-to-face exam. Evaluation will be based on the student's efforts and improvement during the term.
 対面形式での試験は行いません。評価は、学生の取り組み方および講義期間中の成長に対して行います。

その他 (Other)

Always bring an English-English dictionary and a thesaurus to class. Either paper or electronic is acceptable.
 英英辞典と英語類語辞典を毎回持参してください。紙媒体でも電子書籍でもかまいません。

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	英文学術論文研究方法論 (4)・(10) [M] Fundamentals of Writing Academic Papers in English				
Campus	Full online	Semester	Spring/Fall	Credits	2
Faculty Member	スティーブンス, サイモンA (Simon A. STEVENS) 兼任講師				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

This course aims to consolidate academic writing skills covered at undergraduate level and then build on and develop these skills. We will work through all the stages of planning (brainstorming); structuring (introduction, body & conclusion); and producing an essay (formatting and citations). Other skills covered include note-taking and proofreading. The course will also look at different essay types, such as comparison and contrast, problem/solution and research report writing.

この講義はすでに学部レベルのライティングスキルをより強化することを目的としている。計画(ブレインストーミング)、構成(序論、本文及び結論)；そして論文作成(書式設定及び引用)の全てに取り組む予定である。その他ノートテイキングや構成に関するスキルについても学ぶ。

また、比較対比、問題解決や研究レポート等、様々な論文を取り上げる予定である。

The most important part of university education is to learn to communicate ideas clearly and effectively. Learning to write well is a skill and is a step by step process.

All students can improve their writing skills and will notice the progress made from the beginning of the class to the end of the semester.

授業内容 (Course Contents)

The class schedule will be as follows but may change according to student needs:

Note : Classes will be on ZOOM. 【メディア授業科目(リアルタイム配信型)】

講義スケジュールは以下のとおり予定しているが、履修者の希望によって変更する場合もある：

Week 1: Introduction to the course (オリエンテーション) What is a good paragraph? What is a good essay?

Weeks 2 & 3: The Beginning-brainstorming techniques (冒頭—ブレインストーミング技法) 3 ways to practice.

Weeks 4 & 5: Paragraphing (unity and cohesion) (パラグラフ練習(統一及び結合))

Week 6: Making an outline (概要の作成)

Week 7: Thesis statements (主旨, This is a vital part to the process, giving the essay direction.

Weeks 8 & 9: Introductions (序論)

Week 10: Conclusions (結論)

Week 11: Supporting evidence (根拠となる証拠)

Week 12: Citations (引用)

Week 13: Writing workshop on problem areas (ライティング演習)

Week 14: Feedback (フィードバック)

In addition to the above, we will also look at and analyse models of good paragraphs and essays. These will give you clear examples of what you can aim for.

Students will start to think about their topic early in each section, share ideas with classmates, develop them while working through the unit before finally producing a paragraph or essay.

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

The class will be limited to 10 students and will be conducted in English.

履修定員を10名とし、授業は英語で実施する。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Assignments will be given for each session. Homework will always be related to what we have studied in class and will also connect to the beginning of next class. Writing is a practical skill for life, so it is very important to practice for homework then I can see areas you need help with.

各講義において課題を課す予定です。

教科書 (Textbook(s))

Introduction to Academic Writing, Oshima & Hogue, Longman

Please also bring a good dictionary

参考書 (Reference(s))

Write Ahead by Jane McElroy, Macmillan

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

I will ask to see your work each week and then give you feedback on your structure and correct your errors. So feedback will always be immediate.

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

50% class participation; 50% Writing assignments

50%参画度, 50%課題

その他 (Other)

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	英文学術論文研究方法論 (7)・(8)・(9) [M] Fundamentals of Writing Academic Papers in English				
Campus	Full online	Semester	Fall	Credits	2
Faculty Member	藤川 真由 (Mayu FUJIKAWA) 特任講師 Ph.D.				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

This course is designed to help students develop academic writing skills in English and become acquainted with how to publish their research findings outside Japan.

In this course, students are required to write a research paper on the topic of their choice. The process of writing will be divided into several steps, which facilitates their learning experiences.

授業内容 (Course Contents)

Week 01: Citation and research topic
 Week 02: Thesis statement, outline, and critical reading
 Week 03: Literature review and academic honesty
 Week 04: Supporting evidence I/Methodology
 Week 05: Supporting evidence II/Results
 Week 06: Article structure, contents, and expressions
 Week 07: Publishing abroad
 Week 08: Discussion
 Week 09: Introduction
 Week 10: Conclusion and abstract
 Week 11: Expansion
 Week 12: Final touches
 Week 13: Revision
 Week 14: Epilogue
 All the classes meet on Zoom.

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

Dedicated students at any English level are welcome to take the course.

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Weekly writing assignments and oral presentations in English.

教科書 (Textbook(s))

None.

参考書 (Reference(s))

A good English dictionary.

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Provide written comments on writing assignments and review them in class.

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Attendance and participation: 10% .
 Assignments: 90% .

その他 (Other)

The course is taught in English.

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	国際系総合研究C [M]				
	Understanding cutting edge neuroendocrinological research in English and how to write or present the scientific manuscript (最先端の神経内分泌学的研究の英語による理解と表現)				
Campus	Full online	Semester	Spring	Credits	2
Faculty Member	川口 真以子 (Maiko KAWAGUCHI) 専任准教授 博士 (医学)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

<Course Summary 授業概要>

Science reveals the truth, and the truth is the truth beyond borders in the world. Student will be able to understand and express scientific content in English, which is the international a common language. This leaning process will significantly improve the skill to collect the cutting-edge scientific information and present scientific research, and will lead it to a higher level.

In this lecture course, professional facilitators from Japan and abroad will introduce cutting-edge research in brain science, neuroendocrinology, and physiology research in various animal models, including humans, in English. Based on these lectures, overseas facilitators will give practical lectures and exercises on how to formulate experimental models and research plans, how to prepare for poster presentations and oral presentations at academic conferences in English, and how to write international research articles for publication. Lectures and practical session will be conducted mainly in English, with supplementary Japanese.

科学は真理を明らかにするものであり、真理は国境を超えて真理である。国際共通語ともいえる英語で科学的内容を理解し、表現できるようになることは、科学的研究のための情報収集および発表する能力を大きく飛躍させ、そのレベルを高めることに繋がる。本講座では、ヒトをはじめとする様々な動物種における脳科学、神経内分泌学、生理学の研究内容について、国内外の研究者が最先端の研究も織り交ぜつつ英語で紹介する。またそれらを背景とし、実験モデルと研究計画の立案方法、英語を用いた学会におけるポスター発表・口頭発表の準備、国際論文の書き方について海外の研究者が実践的なレクチャー・演習を行う。講義・演習ともに主に英語で行い、補足として日本語を用いる。

<Objectives 到達目標>

Through this lecture, students will deepen their understanding of biological function regulation, including the brain. At the same time, we aim to improve Japanese students and international students from non-English-speaking countries to understand and express scientific content using English and to improve the research skills of international students from English-speaking countries.

本講義により脳を含んだ生体機能調節についての理解を深める。同時に、日本人学生および英語圏以外の留学生においては英語を用いた科学的内容の理解力および表現方法の向上、英語圏の留学生においては研究力を向上させることを目標とする。

授業内容 (Course Contents)

<Title 講座タイトル>

Understanding cutting edge neuroendocrinological research in English and how to write or present the scientific manuscript

最先端の神経内分泌学的研究の英語による理解と表現

<Course Contents>

10th April

1. Introduction. [Media class (real-time delivery type)] Gen Watanabe (Emeritus Professor, Tokyo University of Agriculture and Technology)

17th April

2. Sex differences and brain diseases. [Media class (real-time delivery type)] Ishwar S Parhar (Former Professor, Monash University Sunway campus) & Tomoko Soga (Associate Professor, Monash University Sunway campus)

24th April

3. Stress and brain disorders. [Media class (real-time delivery type)] Tomoko Soga

8th May

4. Hypothalamic-pituitary reproductive regulation: similarities and differences between mammals and teleost fish. [Media class (real-time delivery type)] Taisen Iguchi (Guest Professor, Yokohama City Univ.)

15th May

5. Recent advances in the anti-aging effects of Thai phytoestrogens on osteoporosis and cognitive impairment. [Media class (real-time delivery type)] Sukanya Jaroenporn (Assistant Professor, Chulalongkorn University) & Gen Watanabe

22th May

6. Experimental models and designing a research experiment. (1) [Media class (real-time delivery type)] Ishwar S Parhar & Tomoko Soga

29th May

7. Estrogenic substances found in diesel exhaust and pesticide degradate. [Media class (real-time delivery type)] Gen Watanabe

5th June

8. Experimental models and designing a research experiment. (2) [Media class (real-time delivery type)] Ishwar S Parhar & Tomoko Soga

12th June

9. How to write a research article. (1) [Media class (real-time delivery type)] Tomoko Soga

19th June

10. How to write a research article. (2) [Media class (real-time delivery type)] Ishwar S Parhar & Tomoko Soga

26th June

11. How to prepare a Poster presentation in English. (1) [Media class (real-time delivery type)] Tomoko Soga

3th July

12. How to prepare a Poster presentation in English. (2) [Media class (real-time delivery type)] Ishwar S Parhar & Tomoko Soga

10th July

13. How to prepare a oral presentation in English (1) [Media class (real-time delivery type)] Tomoko Soga

17th July

14. How to prepare a oral presentation in English (2) [Media class (real-time delivery type)] Ishwar S Parhar & Tomoko Soga

*The content of lecture may be changed as needed.

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

The classes in this course will run unperiodically on Monday 4th periods. The exact class dates are shown in the Course Contents. In addition, this course will be taught in both English and Japanese. All lectures will be held online via Zoom. Zoom information will be sent to registered students.

月曜4限。開講日は授業計画に記載。本科目は英語及び日本語を使用します。本講義は全てZoomによるオンラインで催します。Zoomの情報は履修者登録した学生に送ります。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Students will be required to read the handouts and deepen your understanding, and create assignments such as reports assigned in each class.

配布する資料を読み、理解を深めること。各授業で課されるレポートなどの課題を作製すること。

教科書 (Textbook(s))

No course textbook.

なし

参考書 (Reference(s))

Reference materials will be provided during the course as needed.

必要に応じて講座期間中に参考資料が提供されます。

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

The summary comments on the assessments will be provided to students during Q and A session in the end of each practical lecture.

実践的なレクチャー・演習の最後に質疑応答の時間を設けて、課題に対するコメントを総括します。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Written Report and presentations

レポートと授業中のプレゼンテーション

その他 (Other)

科目ナンバー: (OP) IND516E					
Subject	国際系総合研究D [M] Comparative Approaches in Art History (比較美術史)				
Campus	Full online	Semester	Fall	Credits	2
Faculty Member	山口 不二夫 (Fujio YAMAGUCHI) 専任教授 博士 (経済学)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

<授業概要 Course Summary>

This class will study fine art from ancient Greek to the beginning of the 20th century. It is quite ambitious, but will bring a fruitful and meaningful outcome in studying not only paintings, but also architecture and sculptures. Students will thereby deepen their understanding of the techniques of the works and materials. This year we shall compare Western Art with Japanese art. While Western Art History covers the period from Greek art to the 19th century Impressionists, there is a wide range of Japanese culture to be compared. For example, Japanese narrative scrolls, ukiyoe prints, contemporary manga and animation. It is quite ambitious but will bring a fruitful and meaningful outcome. Each class will start with a PowerPoint, followed by a video of around 20 minutes long.

<到達目標 Objectives>

Our goal is to know how these fine arts synchronized with politics, social movements, religious systems, science, and technology in their time. As a result, students will reach the following three objectives: 1. Broaden education as an international person. 2. Learn what innovation has done to the development of fine arts. 3. Provide idea sources for marketing and advertising.

この授業はメディア授業です。英語で行われますが、理解を確実にするために、適宜日本語の解説や要約も加えます。芸術は自然とともにビジネスや学問の創造性の源泉です。本講義では西洋美術の歴史を、①社会や政治で果たした役割、②各時代の技術との関わりを考慮しながら、学びます。14回と回数に限られています。エジプト、ギリシア美術から後期印象派までを扱います。その時代の状況、芸術家の生涯、彫刻と絵画、建築の解説を行います。時間が許せば、20分程度英語のビデオを鑑賞します。ビジネスや交渉のあと互いの文化について英語で語り合えることを目標にしています。特に今年度は比較美術史の観点を導入し、過去の美術や日本の作品との比較を行います。

オンライン(Zoom)のアカウントは近づきましたら、お知らせいたします。成績評価はレポートか課題のオンライン提出となります

授業内容 (Course Contents)

Lecturer

Week 1	Introduction: ① reference books; H.G. Janson's History of Art for Young People and E.H. Gombrich's The Story of Art. Scoring method and questionnaire. Fujio YAMAGUCHI*1 & Mika OGASAWARA*2メディア授業リアルタイム配信型
Week 2	Egyptian Art Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 3	Greek Art Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 4	Comparative Culture of Art; How the image of Hercules was applied to Buddhists Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 5	Roman Art and Christian Art Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 6	Comparative Culture of Art; Origin of Manga and Animations, Picture Scrolls (Shigisan Engi Emaki) Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 7	Romanesque Art and Gothic Art Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 8	Early and High Renaissance Art in Italy Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 9	The Renaissance in the North Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 10	Baroque Art (Art of Kings and Art of Citizens) Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 11	Comparative Culture of Art: Japone Rok (In the second half of 17th century Netherlands) Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 12	Neoclassicism and the Romantic Movement (The Age of Napoleon) Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 13	Realism and Impressionism Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型
Week 14	Comparative Culture of Art; Ukiyoe Mika OGASAWARA & Fujio YAMAGUCHIメディア授業リアルタイム配信型

- *1. Fujio YAMAGUCHI Graduate School of Global Business, Professor
- *2. Mika OGASAWARA The Institute of Politics and Economy (Seiji Keizai Kenkyujo), Researcher

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

Students who have an interest in fine arts and wish to broaden their knowledge of the subject

この授業はメディア授業 リアルタイム配信型です。

ZoomアカウントはOh-ol Meijiのお知らせ機能で配信します。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

Learning technical art terms and techniques allows proper understanding of art history; therefore, a glossary will be handed out in the first lesson, with more terms provided on worksheets thereafter. Chronological tables of European history and maps will be submitted four times throughout the class, which should be looked over before class along with the glossary. Reviewing the videos aired in class will also enhance understanding.

基本用語集や歴史地図は授業で配布します。

教科書 (Textbook(s))

You need not to purchase the textbooks.

参考書 (Reference(s))

Janson, H.W., and Anthony F. Janson. History of Art for Young People. New York, 1992.
Gombrich, E.H. *The Story of Art*. New York, 1972.
Smith Piece, James. *From Abacus to Zeus: A Handbook of Art History*. New Jersey, 1977.
上記の三冊は邦訳もあり有名な本なので比較的容易に入手できます。

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

By using Oh-ol Meiji's report comment.

Oh-ol Meijiのレポートコメント欄を用いてフィードバックします。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

クラスへの参加度、と理解度を評価します(20%)。また授業で勉強した作品についての課題が出されます(毎回ではありません)。それに対するコメントを次回までに提出すること(30%)。最後にレポートを書いてもらい(50%)、評価します。

Students will be assessed on their participation in class and their understanding of English (20%). You will also be given an assignment (not every lesson) on a piece of work studied in class (30%). Comments on it must be submitted by the next session. You will be asked to write a report at the end of the course, which will be evaluated (50%).

その他 (Other)

美術はビジネスやあらゆる学問において創造性の源泉です。本講義は英語で行いますが資料をお手元に配布し、豊富なスライドや動画 (BCC放送番組やアメリカの放送大学のプログラム) を用いますので、初歩の英語がわかれば非常に興味深く授業を受けることができます。またその場でわからなくとも、配布したパワーポイント資料で復習することができます。時にはクラスディスカッションや特製美術史ゲームも交え、留学生や多文化の交流の場も目指しています。

科目ナンバー: (OP) IND516J					
科目名	学際系総合研究A [M]				
講座タイトル	学際的なアメリカ研究				
キャンパス	フルオンライン	開講期	春学期	単位	2
コーディネーター	清原 聖子 専任教授 博士(法学)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

【授業の概要】

本講座は、学際的なアメリカ研究に関する講義と実践的な演習を組み合わせで行う。「選挙は不正」と2020年の大統領選挙で繰り返し主張したトランプ前大統領とその支持者の存在によって、アメリカの民主主義は根幹から揺らいでいると言っても過言ではない。本講座では、現代アメリカ政治や社会が抱える諸課題、そしてアメリカと諸外国との関係に対し、異なる研究バックグラウンドを持つ学内の複数の教員がそれぞれの研究アプローチから最新の研究を紹介する。本講座の履修者はアメリカ政治を研究対象にしている大学院生に限定せず、ジャーナリズム論や政治コミュニケーション論、国際関係論、ジェンダー論など他の研究分野を専攻する大学院生も想定している。

【授業の到達目標】

本講座では、迷走するアメリカ政治、社会がどこへ向かうのか、履修者自身が展開する力を養い、そこで得た知見を各自の研究分野に役立たせることを目標とする。

授業内容 (Course Contents)

- 第1回 aのみ、イントロダクション【担当:清原聖子(情報コミュニケーション学部)】(リアルタイム配信)
- 第2回 分極化が進む現代アメリカ政治1 【『アメリカ政治の地殻変動』序論、第9章を読む、担当:清原聖子】(リアルタイム配信)
- 第3回 分極化が進む現代アメリカ政治2 【履修生のプレゼンテーション、担当:清原聖子】(リアルタイム配信)
- 第4回 SNSの弊害 インスタグラムを事例に1 【Wall Street Journal “Facebook Files”を読む、担当:水野剛也(政治経済学部)】(リアルタイム配信)
- 第5回 SNSの弊害 インスタグラムを事例に2 【履修生のプレゼンテーション、担当:水野剛也】(リアルタイム配信)
- 第6回 政治コミュニケーションからのアプローチ1 【『政治レトリックとアメリカ文化』を読む、担当:鈴木健(情報コミュニケーション学部)】(リアルタイム配信)
- 第7回 政治コミュニケーションからのアプローチ2 【履修生のプレゼンテーション、担当:鈴木健】(リアルタイム配信)
- 第8回 政治とサイバーセキュリティ 1 【“Exhausting and Dangerous”を読む、担当:湯浅壘道(ガバナンス研究科)】(リアルタイム配信)
- 第9回 政治とサイバーセキュリティ 2 【履修者のプレゼンテーション、担当:湯浅壘道】(リアルタイム配信)
- 第10回 アメリカ世界戦略とアジア太平洋1 【『米中争覇とアジア太平洋』序章、第7章、第9章を読む、担当:鈴木健人(情報コミュニケーション学部)】(リアルタイム配信)
- 第11回 アメリカ世界戦略とアジア太平洋2 【履修生のプレゼンテーション、担当:鈴木健人】(リアルタイム配信)
- 第12回 インターセクショナリティと現代アメリカ1 【『インターセクショナリティの時代?』『アメリカ政治を変える黒人女性たち』中絶論争が見えなくしたもの』を読む、担当:兼子歩(政治経済学部)】(リアルタイム配信)
- 第13回 インターセクショナリティと現代アメリカ2 【履修生のプレゼンテーション、担当:兼子歩】(リアルタイム配信)
- 第14回 履修生による最終プレゼンテーション・まとめ 【担当:清原聖子】(リアルタイム配信)

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

本授業はすべての回をリアルタイム配信で行うメディア授業である。Zoomのミーティング情報は各回の3日前までにOh-o! Meiji、クラスウェブの「お知らせ」機能を用いて通知するので、必ず確認すること。履修者には、本講座をコーディネートする教員のメールアドレスを通知する。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

オムニバス授業であるため、教科書は指定しないが、各回の授業について担当教員から事前にクラスウェブの「授業内容・資料」で指示された文献資料を読んで授業に臨むこと。

なお第2回(清原担当)、第6回(鈴木健担当)、第10回(鈴木健人担当)の文献は、参考書の欄に明記されている。第8回(湯浅担当)の文献は、下記のサイトでアクセスできる。

“Exhausting and Dangerous”: The Dire Problem of Election Misinformation and Disinformation

(<https://oversight.house.gov/sites/democrats.oversight.house.gov/files/2022-08-11%20Election%20Disinformation%20Report%20.pdf>)

履修者のプレゼンテーションの回は、担当教員に事前に示された課題について、発表準備が必要。

教科書 (Textbook(s))

指定しない。

参考書 (Reference(s))

『子どものデジタル脳 完全回復プログラム』ヴィクトリア・L・ダンクラー、川島隆太監修、鹿田昌美訳、(飛鳥新社)、2022年

『ハックされる民主主義: デジタル社会の選挙干渉リスク』土屋大洋・川口貴久(編)、(千倉書房)、2022年

『アメリカ政治の地殻変動—分極化の行方』久保文明・中山俊宏・山岸敬和・梅川健(編)、(東京大学出版会)、2021年

『米中争覇とアジア太平洋: 関与と封じ込めの二元論を超えて』鈴木健人・伊藤剛(編)、(有信堂)、2021年

『インターセクショナリティ』パトリシア・ヒル・コリンズ&スルマ・ビルゲ(著)、小原理乃(訳)、下地ローレンス吉孝(監修)、(人文書院)、2021年

『政治レトリックとアメリカ文化—オバマに学ぶ説得コミュニケーション』鈴木健、(朝日出版社)、2010年

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

授業時間内にフィードバックを行う。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

授業でのプレゼンテーション(70%)、ディスカッションへの参加(30%)

その他 (Other)

科目ナンバー: (OP) IND516J					
科目名	学際系総合研究B [M]				
講座タイトル	会計検査から見た事業の評価				
キャンパス	フルオンライン	開講期	春学期	単位	2
コーディネーター	長岡 尚志 客員教授				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

〈授業概要〉

従来、わが国の行政においては、予算の獲得等に重点が置かれがちであったが、2000年頃から、政策の効果等に基づき政策を積極的に見直すといった評価機能の重要性が広く認識されるようになり、政府においても政策評価、行政評価機能が強化されるなどしてきた。さらに、近年は政策の有効性を高め、国民の行政への信頼確保に資することを目的とした「EBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案）」についての議論も活発に行われている。一方、会計検査院は国等に対する長年の検査活動を通じ、幅広い政策分野における事業の評価についてのノウハウ等を蓄積している。そこで、会計検査制度、会計検査活動を概観した上で、具体的な検査結果を題材として、事業を評価する際の観点、手法、陥りやすい誤謬、今後の課題などについて、実務的な経験も交えて、多角的に考察する。基本的には行政活動に対する評価の考察が中心となるが、民間セクターの活動も含めた「評価」への応用の可能性についても考察したい。

〈到達目標〉

事務、事業を「評価」する際に留意すべき観点、着眼点等の基礎的なポイントを理解、習得することを目標とする。

授業内容 (Course Contents)

- 第1回 イントロダクションー 会計検査の基本的役割 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第2回 検査の目的、観点 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第3回 検査の対象、方法 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第4回 検査結果の処理、検査報告 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第5回 会計検査制度について(中間まとめ) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第6回 事例研究(1) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第7回 事例研究(2) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第8回 事例研究(3) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第9回 事例研究(4) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第10回 事例研究(5) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第11回 事例研究(6) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第12回 事例研究(7) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第13回 事例研究(8) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- 第14回 各受講者によるレポートの報告及び議論。まとめ [メディア授業(リアルタイム配信型)]

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

この授業はメディア授業科目として開講される。

具体的には、ZOOMによるリアルタイム配信と駿河台キャンパスにおける対面授業を同時並行で行うことにより、駿河台キャンパスにおいて対面で受講することと、他のキャンパス等からオンライン受講することを、選択することが可能となっている。

授業の内容は、強いて言えば、行政学、評価論、公監査論といった分野になるかと思われるが、基本的に実務からみた議論を行うこととなるので、これら分野に関する専門知識の有無は問わない。むしろ、多様な視点からの議論こそが「評価」を考察する上では不可欠であり、素朴な疑問こそが議論を活性化すると考えるので、理系分野を専門とする者を含め、この分野に初めて触れる受講者も歓迎する。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

事例研究においては、事前に事例集を配布するので、授業までに該当部分を一読しておくこと。

また、日頃より新聞等により社会情勢等について関心を持ってほしい。レポートの課題もそれを前提としたものを予定している。

教科書 (Textbook(s))

指定しない。

参考書 (Reference(s))

- 『会計検査院パンフレット』 (第1回授業にて配布)
- 『決算検査報告』会計検査院 <https://report.jbaudit.go.jp/>

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

レポートを全受講者に配布した上で、第14回授業において、報告及び議論を行う。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

レポートの内容(40%)、授業における質疑・コメント等の内容(60%)による。
なお、対面形式での試験は行わない。

その他 (Other)

受講者の関心に沿った授業を進めるためにも、積極的な質問・コメントを期待する。

科目ナンバー: (OP) IND516J					
科目名	学際系総合研究C [M]				
講座タイトル	地域経済分析				
キャンパス	フルオンライン	開講期	春学期	単位	2
コーディネーター	八木 尚志 専任教授				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

《授業の概要》

本講座は、地域経済に関する講義を行います。新型コロナ禍の影響により、都道府県間の移動の自粛が求められ、各地域の経済活動の把握の必要性は広く知られるところとなりました。地域経済の動向はマクロ経済指標では捉えることができず、日本経済に関する指標は全国の平均を表すものであり、それに対して東京都の産業構造の変化は速く地方の県や市町村の経済は変化が緩やかであったりします。新型コロナウイルスの影響ばかりではなく、集中豪雨や台風の影響、震災の影響などは、サプライチェーンの分断を引き起こします。人口の大都市への集中により、都市と地方の経済の格差も拡大し、労働環境にも相違があります。日本経済を構成する各地域の特性とその分析手法をこの講義で取り上げます。

本講義では、地域経済の問題や分析手法を14回のオムニバス形式で講義を行います。取り上げるテーマは、都道府県間の経済構造分析(中部圏経済)、都道府県の経済(東京都、神奈川県、静岡県の経済など)、市町村の経済、あるいは震災、災害などの地域経済の問題をよく表している内容を取り上げます。また手法については地域経済分析のモデルの紹介とその適用方法について解説します。

《到達目標》

本稿で取り上げられるデータを理解することができ、講義で説明される分析手法やモデルや指標にデータを適用した分析のテクニックを習得すること。

授業内容 (Course Contents)

- 第1回 「地域経済分析への入門」八木尚志(政治経済学部専任教授)
- 第2回 「県民経済計算の読み方」菅幹雄(法政大学経済学部教授)
- 第3回 「地域の産業構造分析」高瀬浩二(静岡大学大学院人文社会科学領域教授)
- 第4回 「静岡県と愛知県の移入構造比較」高瀬浩二(静岡大学大学院人文社会科学領域教授)
- 第5回 「スカイラインチャートとバランスチャート」宇多賢治郎(山梨大学教育学部准教授)
- 第6回 「コロナウイルスの地域経済への影響」菅幹雄(法政大学経済学部教授)
- 第7回 「地域経済分析」下田充(日本アプライドリサーチ研究所主任研究員)
- 第8回 「地域経済分析」下田充(日本アプライドリサーチ研究所主任研究員)
- 第9回 「地域の中小企業が地域経済に与える影響」居城琢(横浜国立大学国際社会科学研究院教授)
- 第10回 「鉄道、高速道路の地域経済への影響分析」居城琢(横浜国立大学国際社会科学研究院教授)
- 第11回 「地域経済と農業の経済分析」齋藤勝宏(東京大学農学生命科学研究科教授)
- 第12回 「震災・復興の地域経済分析」米本清(高崎経済大学地域政策学部准教授)
- 第13回 「地方分散度の分析」米本清(高崎経済大学地域政策学部准教授)
- 第14回 「地域経済の連関構造」八木尚志(政治経済学部専任教授)

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

メディア授業(リアルタイム配信型)の授業として実施します。

Zoomのアカウント情報は、授業の前日までにOh-o! Meijiの授業の「お知らせ」機能で案内します。

複数の講師で担当する講義科目ですので、出席を重視します。各担当教員ごとに演習や課題があります。事前学習については各担当教員の初回の授業で指示します。レポートを授業の最終回までに提出していただきます。

準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)

特定の教科書は使用しません。毎回講義資料を配布します。

教科書 (Textbook(s))

特に指定しません。

参考書 (Reference(s))

土居英二, 浅利一郎, 中野親徳(編著)『はじめよう 地域産業連関分析(改訂版)[基礎編] Excelで初歩から実践まで』日本評論社

土居英二, 浅利一郎, 中野親徳(編著)『はじめよう 地域産業連関分析 改訂版 事例分析編』日本評論社
『産業連関』J-stage: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/papios/-char/ja/>
など。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

授業での演習等80%。地域経済分析に関するレポート20%。

その他 (Other)

政策評価・地域分析などに適用される析手法を学びます。この講義を通じて、地域経済への理解を深め、実際にどのようなことに応用され役立っているのかについて理解を深めてください。

科目ナンバー: (OP) IND516J					
科目名	学際系総合研究D [M]				
講座タイトル	生物多様性—新たな規範を求めて—				
キャンパス	生田	開講期	春学期	単位	2
コーディネーター	倉本 宣 専任教授 博士(農学)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

＜授業概要＞

生物多様性は1992年のリオデジャネイロサミットによって、同時に条約の作られた地球温暖化問題と比べて、概念がわかりにくく、普及が遅れている。そこで、生物多様性概念についてのブレイクスルーを目指して、文理融合型の7名の講師からなる講座を開催する。

2022年の第15回締約国会議(モントリオール)で扱われているポスト2020生物多様性枠組みも扱い、企業の取り組みも紹介する。

＜到達目標＞

授業の終了時に、自分の専門とする学問との関係を含めて、自分なりの生物多様性に対する認識を身に着けることと、さまざまな人と生きものに対する興味と畏敬の念を持つことを到達目標とする。

授業内容 (Course Contents)

- 第1回 生物多様性とは 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 倉本 宣(農学部専任教授)
- 第2回 水田を中心とした里山の生物多様性 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 森本信生(宍塚の自然と歴史の会)
- 第3回 宍塚の自然と歴史の会における地域の生物多様性活動 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 森本信生(宍塚の自然と歴史の会)
- 第4回 生物多様性を基盤とした狩猟採集活動 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 田口洋美(東北芸術工科大学教授)
- 第5回 山と人と動物とフィールドワーク 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 田口洋美(東北芸術工科大学教授)
- 第6回 送粉昆虫を介した植物の花形態の進化 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 堂園いくみ(東京学芸大学准教授)
- 第7回 カタハミから見える生物多様性 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 堂園いくみ(東京学芸大学准教授)
- 第8回 市民科学による生物多様性調査 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 秋山幸也(相模原市博物館学芸員)
- 第9回 地域博物館の資料から生物多様性を考える 秋山幸也(相模原市博物館学芸員)
- 第10回 生物多様性と生態系サービス 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 矢崎友嗣(農学部専任講師)
- 第11回 地球温暖化と生物多様性を結び付ける炭素循環 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 矢崎友嗣(農学部専任講師)
- 第12回 国際的な環境教育の流れと生物多様性 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 林 浩二(千葉県立中央博物館学芸員)
- 第13回 生物多様性は社会に根付くか 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 林 浩二(千葉県立中央博物館学芸員)
- 第14回 まとめと企業の取り組みの紹介とレポートの解題 【メディア授業(リアルタイム配信型)】 倉本 宣(農学部専任教授)

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

この授業はメディア授業科目として開講する。

授業は第9回を除き、Oh-ol Meijiシステムを通じて配信するリアルタイム配信型で行う。

第9回は標本を実際に観察するので、対面で行う。

出席の確認は、zoomにおける発言の有無によって行う。

問い合わせはkura@meiji.ac.jp倉本まで。

準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)

講義では予習しておくべき課題を講師またはコーディネーターが提示するので、予習したうえで、授業に臨むこと。それぞれの専門分野に関わる、さまざまな人と生きものに対する興味を深めておいてほしい。

教科書 (Textbook(s))

特に定めない。

参考書 (Reference(s))

第2回:日本の科学者2018年4月号(特集 水田が支える生物多様性とその保全) 53巻4号(事前配布)

第3回:五斗蒔だより(宍塚の自然と歴史の会会報)(事前配布)

第4回:田口洋美『越後三面山人記:マタギの自然観に習う』ヤマケイ文庫(山と溪谷社)

第5回:田口洋美『クマ問題を考える:野生動物生息域拡大期のリテラシー』ヤマケイ新書(山と溪谷社)

第8回:『神奈川県植物誌2018』ネット上で閲覧可能

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

講師の2回ごとの課題についてのコメントを翌週までにOh-ol Meijiシステムを通じて配信する。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

講師ごとの短いレポート10点×6と全体のレポート40点で採点する。

対面形式での試験は行わない。

その他 (Other)

自分の立場を明確に意識しながら、専門外の分野にも主体的にかかわってほしい。

科目ナンバー: (OP) IND616J					
科目名	ライフサイエンスデータ解析 [M] (Data analysis for life science)				
キャンパス	共通 (フルオンライン)	開講期	春学期	単位	2
コーディネーター	中村 和幸 (Kazuyuki NAKAMURA) 専任教授 博士 (学術)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

情報分野のみならず、農学や理学など様々な研究分野において、データを効率的かつ効果的に解析し、得られた結果を適正に解釈できる素養が求められている。この講義では、現象の特徴を理解するための様々なデータ解析や可視化などの方法について網羅的に学ぶ。前半はデータ解析の基礎となるデータ処理や確率統計について解説し、後半はより具体的な解析手法やプログラミングを習得する。なお、授業ではスライドによる解説に加え、各自がパソコンを使用して与えられたデータを実際に解析することで内容の理解を深める。

これまでデータ解析にあまり馴染みのない学生は、データの扱いに慣れること、そして現象を数値として捉える思考を養うことを目指す。一方、データ解析に比較的馴染みのある学生は、解析によって得られた結果の位置づけと意義を考える力を養うことを目指す。

講義全体を通して、各解析手法の詳細について理解を深めるよりは、様々な解析方法の基礎を広く浅く学ぶことを目的とする。

授業内容 (Course Contents)

- 第1回: イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第2回: データ処理と可視化 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第3回: 確率統計の基礎 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第4回: 様々な検定 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第5回: 多変量解析 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第6回: プログラミングの基礎 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第7回: 推定と尤度 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第8回: 線形回帰モデル [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第9回: 一般化線形モデル [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第10回: ベイズ統計学 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第11回: 時系列・時空間データ解析 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第12回: 機械学習I・分類 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第13回: 機械学習II・識別 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]
- 第14回: まとめと総括 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

この講義はメディア授業科目 (リアルタイム配信型) として開講される。出席はZoomの入室記録で確認する (講義参加前にZoomの表示を名前と所属に変更)。そのため、受講にはZoomを利用できる機器およびネットワーク環境が必要となる。

授業中のデータ解析には、無料の統計ソフトRもしくはPythonを用いる (どちらか選択)。RとPythonの環境構築については第1週で説明する。必要に応じて授業の終わりに課題を掲示し、翌週の講義までに提出してもらう。

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

RやPythonの使い方および統計学の基礎について予習する。また、授業内容を復習して理解を深める。興味関心や自身の研究と関連する解析手法について調べ、研鑽を深める。

教科書 (Textbook(s))

特になし。

参考書 (Reference(s))

- 「データ解析のための統計モデリング入門 (一般化線形モデル・階層ベイズモデル・MCMC)」岩波出版
- 「Rによるデータサイエンス: データ解析の基礎から最新手法まで」森北出版
- 「東京大学のデータサイエンティスト育成講座～Pythonで手を動かして学ぶデータ分析～」マイナビ出版
- 「はじめてのR: ごく初歩の操作から統計解析の導入まで」北大路書房
- 「Python1年生 体験してわかる! 会話でまなべる! プログラミングのしくみ」翔泳社
- 「入門Python3」オライリージャパン

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

提出された課題の状況に応じ、全体で共有すべき点について講義内で適宜解説する。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

授業への参加度 60%, 講義内課題 20%, レポート 20%

その他 (Other)

質問は授業中および授業終了後に受け付ける。また、個別の質問や解析についての相談は随時対応する。

科目ナンバー: (OP) INS915J					
科目名	ジョブ型研究インターンシップ				
キャンパス	—	開講期	通年(集中)	単位	2
コーディネーター	榊原 潤 専任教授 博士(工学)				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

博士後期課程の学生が企業の研究所等において2か月以上にわたり有給(初任給程度)で研究活動を行うことで、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成することを目的とする。

なお、本プログラムは文部科学省主導の事業であり、運営はジョブ型研究インターンシップ推進協議会事務局[株式会社アカリク](以下、「運営事務局」という。)が行う。

授業内容 (Course Contents)

【1】インターンシップ(2か月以上)

運営事務局提供のシステムを通じて企業へ応募し、選考を受ける。インターンシップの実施期間・場所は企業ごとに異なる。

インターンシップ終了後、受入企業は学生に対して面談評価を行い、評価書・評価証明書を発行する。

【2】インターンシップ成果報告会

受入企業担当者を招いて、指導教員の参加のもと、インターンシップの成果報告を行う。

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

<履修対象者>

以下の条件を全て満たす者を履修対象者とする。

①インターンシップ実施期間において博士後期課程に在籍していること。

②専攻分野は自然科学系を原則とする。(文系・理系は問わない。)

※2023年度中に人文科学・社会科学系等の「文系」含め、専攻分野を問わず参加可能な制度に変更される予定です。制度変更があった場合は、具体的な参加方法についてOh-oi Meiji等でお知らせします。

③指導教員にインターンシップの参加及び本授業科目履修の承諾を得ること。

<その他留意事項>

・履修希望者は事前ガイダンスに必ず参加すること。(開催日時等詳細についてはOh-oi Meijiにて周知予定)

・当該年度に修了を予定している学生が参加できるインターンシップは、雇用期間が12月末までのものに限る。

準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)

授業外学習として、運営事務局が実施する導入研修(知的財産・特許の取り扱い、情報管理・サイバーリスク、現場での安全教管理等)の参加を必須とする。

教科書 (Textbook(s))

なし

参考書 (Reference(s))

なし

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

インターンシップ終了後に、事前に設定した取組み目標に対するインターンシップでの成果等を踏まえたフィードバックを実施報告書を通じて行う。また、受入企業からも評価書が発行される。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

運営事務局提供の導入研修の参加、インターンシップ終了後に提出する実施報告書、受入企業が発行する評価書及び成果報告会での発表に対する評価内容に基づいて評価する。成績評価は「認定」(合格)もしくは「F」(不合格)の2種類とする。

その他 (Other)

ジョブ型研究インターンシップ概要紹介(本学ホームページ) https://www.meiji.ac.jp/dai_in/job_intern/index.html

科目ナンバー：(OP) INS911J					
科目名	キャリアパス支援科目				
講座タイトル	産学連携型キャリア支援講座				
キャンパス	駿河台	開講期	春学期(集中)	単位	2
コーディネーター	歌代 豊 専任教授				

授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

産業界を代表する企業の協力のもと、ビジネスや技術の動向等に関するレクチャー及び、最新の社会・国際問題、テクノロジー、ビジネス上におけるリアルな課題提供を企業人講師から受け、その課題に対し、チームで協働して取り組むプロジェクト型学習・PBL(Project Based Learning)を基本とした講座です。

研究科横断で集まった院生が、企業等の最先端の知識やテクノロジーにアクセスしながら、各々の専攻及び分野による知識や技術的な視点から総合知を発掘し、さらに講師からフィードバックを受ける過程を通じ、企画提案や課題解決のビジネススキル、チームでの協働経験を通じたコミュニケーション力、プレゼンテーション能力等の汎用的スキルが養われます。

一連の課題解決や価値創出の経験を通じて、自らの研究テーマと社会(産業界)との接点や関わりを意識し、自らのキャリアパスや社会的通用性を考察する契機にできます。

授業内容 (Course Contents)

第1回:4月10日(月)5時限

- ・イントロダクション及び大学院生が社会で求められる力とキャリアパス
- [担当講師]歌代 豊(経営学部専任教授)、小川 智由(元・商学部専任教授)、横内 雄介(キャリアコンサルティング技能士/大学院事務室)

第2～4回:7月29日(土)3～5時限

- ・テクノロジーとダイバーシティによるイノベーション～DXによるイノベーションと社会・産業の変革～《Lecture》
- ・ダイレクトマーケティング企業体におけるインターネット通信販売ビジネスとその展望・課題《Lecture》
- ・ケース企業のサプライチェーンに関する課題の分析と解決へのアプローチの指導(コンサルタントの上司の下での課題解決)《Lecture》
- [担当講師]田端 真由美(日本アイ・ピー・エム株式会社 技術理事 デリバリー・トランスフォーメーション担当):第2回
- 松川 公司(三菱ケミカルエンジニアリング株式会社 ロジスティクスコンサルタント/プロジェクト第2本部 生産・ロジスティクス事業部マネジャー):第3回、第4回

第5～6回:7月31日(月)3～4時限

- ・課題解決のための情報収集・問題の特定《Team Activity》
- ・課題解決のためのビジネスアイデアの検討《Team Activity》
- [担当講師]歌代 豊(経営学部専任教授)、小川 智由(元・商学部専任教授)

第7～9回:8月2日(水)3～5時限

- ・中間報告・フィードバック
- ・最終提案に向けた分析・検討手法の指導《Lecture》
- ・提案内容のリバイス《Team Activity》
- [担当講師]田端 真由美(日本アイ・ピー・エム株式会社 技術理事 デリバリー・トランスフォーメーション担当):第7回
- 松川 公司(三菱ケミカルエンジニアリング株式会社 ロジスティクスコンサルタント/プロジェクト第2本部 生産・ロジスティクス事業部マネジャー):第8回
- 歌代 豊(経営学部専任教授)、小川 智由(元・商学部専任教授):第9回

第10～12回:8月3日(木)3～5時限

- ・課題解決のためのビジネスモデル構築《Team Activity》
- ・課題解決のためのバリュー・プロポジション・デザイン《Team Activity》
- ・課題解決のための実行計画の策定、企画提案書の作成《Team Activity》
- [担当講師]歌代 豊(経営学部専任教授)、小川 智由(元・商学部専任教授)

第13～14回:8月5日(土)3～4時限

- ・最終報告・フィードバック
- ・総括と振り返り、今後のキャリアデザインにおける行動計画作成
- [担当講師]田端 真由美(日本アイ・ピー・エム株式会社 技術理事 デリバリー・トランスフォーメーション担当):第13回
- 松川 公司(三菱ケミカルエンジニアリング株式会社 ロジスティクスコンサルタント/プロジェクト第2本部 生産・ロジスティクス事業部マネジャー):第13回
- 歌代 豊(経営学部専任教授)、小川 智由(元・商学部専任教授)、横内 雄介(キャリアコンサルティング技能士/大学院事務室):第14回

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

本授業は通常の授業期間外に行われる集中授業(7月下旬から8月にかけて実施)です。初回授業のみ4月の授業開始後の初週に行いますが、他の履修予定の授業の初回と重複し、止むを得ずこの授業を欠席する場合は、事前に事務室(所属する研究科)に申し出てください。

プロジェクトに取り組むTeam Activityが重要な授業になるため、メンバーへ主体的に関与する姿勢や迷惑を掛けない(複数回の欠席、途中離脱等)ことを理解したうえで履修してください。

協力企業への直接的な就職や採用に直結した授業ではないため、会社説明や業界研究のセミナー等とは趣旨が異なることを理解したうえで、履修してください。

準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)

チームでのプロジェクトへの取り組みの進捗によって、一部、授業時間外の活動が必要になるケースがあるため、そのことを理解したうえで履修してください。

教科書 (Textbook(s))

特に定めない。

参考書 (Reference(s))

特に定めないが、適宜講師から示すこともあります。

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Team Activity及び中間・最終報告に対するレビューを通じてフィードバックを行います。

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

レポート評価、出欠等の平常点(60%)、企業へのチームでの提案内容評価(40%)

その他 (Other)

※この授業は経営学部(経営学研究科)の教員がコーディネーターを担当しますが、人文・社会科学、自然科学系等の分野や専攻を問わず対象としています。自らの専攻分野に関わらず、将来のキャリアパスのための積極的な履修を歓迎します。

交通遅延発生時の授業等の措置について

	<p>緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。</p>
1 悪天候等により大規模な交通遅延が予想される場合	<p>悪天候等により、授業日に大規模な交通遅延が予想され、授業の臨時休講等の特別な措置を講じる場合には、当該授業開始時間の3時間前までを目途に、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。</p>
2 本学への通学における主要交通機関に遅延が生じた場合	<p>本学の各キャンパスへの通学における主要路線に大規模な遅れや運休が生じた場合は、急遽特別な措置を講じる場合があります。その場合には、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。</p> <p>なお、自身が利用する交通機関の遅延により、授業を遅刻または欠席せざるを得なかった場合は、交通機関にて遅延証明書等を入手したうえで、各授業担当教員にご相談ください。</p>

大規模地震等災害発生時の対応について

1 大規模地震発生時の行動	<p>授業中に大規模地震が発生した場合は、あわてず次のような安全行動をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震建築又は耐震補強がなされており、容易に倒壊することはないと想定しています。</p> <p>(1) 地震発生時の行動</p> <p>身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。(大きな地震でも1～2分で揺れはおさまります。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下に隠れる、衣類や鞆等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。 ・自動販売機、ロッカー等は倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、近寄らないでください。 <p>(2) 地震直後の行動</p> <p>大きな地震の後には、必ず余震が来るとおぼやかしてください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。 ・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を利用した初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全を確認してください。 <p>(3) 地震後の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷病者がいる場合、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。
---------------	--

(4) 避難行動

- ・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災、壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合、薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により、各建物ごとに指定された「一時集合場所」へ移動してください。
- ・授業中の場合は、授業の受講者単位で移動してください。
- ・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。
- ・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。
- ・各キャンパスの一時集合場所は、明治大学HP内にある「明治大学防災ガイド」(<https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html>)を確認してください。

(5) 帰宅困難対策について

大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等の安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学では、非常用の食料等を備蓄しています。

2 火災発生時の対応

(1) 火災を発見した場合の行動

- ・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。
- ・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。
- ・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。
- ・消火できそうな火災は、消火器等を利用して初期消火にあたってください。

(2) 初期消火のポイント

- ・炎や煙に惑わされず、燃えているものを確かめてください。
- ・燃えているものに適した消火器等を使用し、適切な距離(3~5m)から消火してください。
- ・出来るだけ多くの人で消火器等を集めて、一気に消火してください。
- ・2か所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。

(3) 避難行動

- ・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。
- ・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する前に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。
- ・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は、煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。

3 災害発生時の連絡方法

- (1) 非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がつながりにくくなります。また、大学では家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認には即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人又はクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。(遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・伝言ダイヤル・災害用伝言板・Google パーソンファインダー、J-anpi 等を利用するなど。)
- (2) 大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、HP 及び所属の学部事務室等から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせしますので、その指示に従ってください。

また、補助的手段として、Twitter からも情報発信を行います。以下の大学のアカウントをフォローしておくことをお勧めします。

明治大学公式アカウント (@Meiji_Univ_PR)

《参考》

・災害発生時の公衆電話・

災害が発生し、加入電話の発信が規制されると、緊急通報(119)も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話がつながるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、NTT回線がつながっていれば、無料で電話がかけられます。

4 平常時の備え

- (1) 大学HPに掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。
- (2) 非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路(通路、階段等)には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、落下物防止の観点から、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。
- (3) 火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。
- (4) 実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。
- (5) 応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

明 治 大 学 大 学 院
研 究 科 間 共 通 科 目

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学大学院事務局